

希望21

ありふれたことだけど
かけがえのない
希望がここにある

People's Hope for 21 century

平和・自治・共生

No.43

1999年5月7日発行

1部 200円 年間購読 3000円

神奈川県相模原市上鶴間2973-3-110

TEL&FAX 042-740-4794

E-MAIL jah03412@niftyserve.or.jp

郵便振替:00100-1-97125 希望21



政治を人々の手に！民主主義の復権を！

金子光史(全国委員)

私たちの重点課題として、各地で取り組んだ統一地方選が終わった。

地域の人々の要求を一つにし、地方議会に議席を獲得することで、自治を人々のものにしていく挑戦の一つとして、私たちは様々な形で取り組んだ。ある地域では、内外の市民政治勢力を結集する形で選挙を戦い、ある地域ではこの4年間の議員としての実績をもとに、緩やか地域政治勢力として草の根の人々を組織する選挙を戦った。また一方で、市民の絆として社民党地域支部の人たちと共同しながら、選挙戦と同時進行していた日米安保ガイドライン関連法案に反対する姿勢を明確にするなど、社民党の存在意義を掘り起こす地域選挙を戦い抜いた。保守の牙城といわれる地域においては、所属する労組の力を背景に、地域の人々の要求や政治課題を明確にし、市民政治勢力の基礎を築く闘いとして取り組んだ。

結果は、社民党と共に取り組んだ選挙に厳しい結果は出たものの、無所属で出た多くの地域では議席を獲得することができた。今回の統一地方選の取り組みについては、今後各地の選挙戦の分析を待つ、今後の教訓として生かしていかなければならないが、今号では選挙戦を通して、かいま見えた「人々の願いや要求から離反して存在する形骸化した民主主義の問題」について触れてみたい。

■なぜ統一地方選では「平和」は票にならないのか？

今回の統一地方選は、地方自治体、住民をいやおうなく戦争に巻き込む戦争協力法案である日米安保ガイドライン関連法案が国会通過するという歴史的な政治局面を迎える中で行われたものである。また3月から始まったNATO軍のコソボ空爆は、民間人を巻き込み、当初予想していた死傷者数をはるかに上回り、ヨーロッパでは第二次大戦以来という大量難民があふれ出すなど泥沼化の様相を呈し始めていた。

コソボの惨状は、アメリカとの戦争協力に歩を踏み出し、自衛隊の実戦参加を可能にしようとする日本にとっても、貴重な真実を伝えていたはずだ。いわゆる抑止力としての戦力保持は、戦争を前提としたものであり、結局は戦争を回避できないという真実。グローバル資本主義時代の覇者アメリカの戦争・侵略国家としての素顔…。コソボの現実は今回の統一地方選でも、自分たちの暮らしをどのようにつくってべきかという観点で、ガイドライン関連法案と絡めて多くの論議がなされるべき状況を私たちに提示していた筈だった。(NATO軍の空爆は、ドイツにとっては第二次大戦以来、54年ぶりの実戦参加。今回の「戦争」参加に対し、政府は決して「戦争」という言葉を口にせず、空爆を「航空打撃」という言葉で言い換えるなど、日本と同じような奇妙な言葉のレトリックで「実戦参加」の批判をかわそうとしている。こうしたドイツと日本の戦争協力国家としての動きは、偶然の一致ではなく、グ

ローバル資本主義下の武力による支配戦略の特徴として押さえておく必要がある。)にもかかわらず、それは全くと言っていいほど政治課題として、取りあげられることはなかった。「平和問題(安保)は票にならない」「自自公路線では結果は目に見えている」「中央政治と地方政治は違う」「地元地域の利益が最優先」「地方議会においては、与党でなくちゃ何にも実現できない」・・・選挙を通して語られた、これらの言葉は、確かに一面の真実・現実をついている。そしてそれだけに、国政と地方政治、人々の生活感覚との距離が痛感される。グローバル資本主義に対峙して、地域から政治を作り直していくという事は、すでに国境を越えて食卓にまで侵出してしまった野菜や肉の話題だけでなく、外交問題や平和が同じようにお茶の間で語られることなくしてはありえないのだ。

■民主主義は、共産党はずし・いじめの論理？

4月26日、神奈川県議会は交渉会派による団長世話人会を開き、交渉会派の要件を従来の「5人以上の会派」から「8人以上」に引き上げることを決めた。「8人以上」というのは、全国都道府県で最も高い設定である。これで今回の県議選で6議席を獲得した共産党の交渉会派入りが不可能となった。この要件引き上げは、選挙前に決定すれば、要件を満たすことのできない会派が生まれるという不安があったために、選挙前の与党6会派が、各党派の議席勢力が固まった選挙直後に、共産党をはずした世話人会で決定しようという内部取り決めをしていたという伏線があり、「非民主的な議会運営手続きによる共産党はずし」「民主主義による共産党いじめ」といわれても仕方がないものである。多数派になれば、何をしようと大丈夫という政治が、国会や地方議会にまかり通っているのである。

政治の非民主的な動きは、神奈川県議会に限らず、非核港湾条例や原発関連の住民投票など、国レベルでも人々の直接的な訴えを一方的に退ける対応として拡大している。形骸化した民主主義が人々の願いや想いと離反し、政治そのものが人々を遠ざけようとしているのだ。こうした動きに対し、選挙民はその批判の矛先をどこにもって行けばよいのだろうか。その憤りを私たちはどのように政治的に表現できるのだろうか。

■議会はいかにして人々の手にコントロールされるか？

ガイドライン関連法案でも、TBS系番組「ニュース23」(13日放送)の世論調査では、この法案の内容について「あまり知らない」「全く知らない」が合わせて60.6%に上り、NHKの世論調査(16日放送「あすを読む」)でさえ、57%の人々が「今国会の成立にこだわらず十分審議を望む」という結果が出ているにも関わらず、国会の数合わせのみによって強行されようとしている。

失業者数が5%に迫る未曾有の失政の時代に、政府は依然として規制緩和、企業のリストラを優先し、税金を垂れ流的に金融機関に注ぎこむ現実。将来の生活に不安を覚えるという人々が70%を越え、それでも内閣を倒すことが出来ない現実。これらは議会制民主主義という間接民主主義への絶望、形骸化されたこれまでの民主主義の限界を示しているように思われる。人々の怒りや憤りは、いかにして選挙による議席獲得という形で組織化され、表現されるのだろうか。人民主権獲得の実感を組織化していく道筋とは何なのだろうか？

■民主主義の徹底こそがグローバル資本主義の政治を覆す

人々から離反しながらも存在し続ける数合わせの政治、資本の自由な跳梁が人々を支配する法制度下において、民主主義は、いつのまにか国家形態に同一視され、形骸化された。民主主義は、人民主権の実現を求める権力問題を抜きにしては、常に市場民主主義へと包摂される危険性を内包している。民主主義の原点である人民主権の実現、不断に人間の対等と平等の実現に向けた民主主義の徹底した実践こそが、形骸化された民主主義の問題を解きほぐしていくのではないだろうか。

あらゆる伝統、文化、人間の生き様そのものを企業利益優先のもとに屈従させ、競争社会へと人々を駆り立てるグローバル資本主義は、根底的に非人間的であり反民主主義的な性格を持たざるをえない。人民主権の獲得に向けた自治とその能力の育成、人間の尊厳と平等の獲得における民主主義の実践は、本来的にグローバル資本主義下においては、戦略的な位置を持つラジカルな闘いである。平和・自治・共生をめざす私たちの闘いは、地域から人々の心の奥深くから進めて行かねばならない。

「民主主義の徹底を！」それは、もっと端的に言えば、グローバル資本主義下における根源的な闘いとして民主主義を位置づけ直すことであり、根本的な社会変革に向け、武器としての民主主義を私たちが獲得していくという事である。民主主義の時代的意義を捉え直し、その今日的課題を明確にすること、そして政治課題へと紡ぎ出していくことは、私たちの極めて今日的な課題と言える。

前号の巻頭で呼びかけた「希望21としての政策作り」を地域の人々ともに、思いきりオープンに作り出していくことは、人民主権に向けた民主主義の取り組みそのものと言える。統一地方選という大きな経験を共有し、生活レベルから、人々の心の奥深くから民主主義の徹底した取り組みを創り出していこう！



希望21：地域から；

ピースウォーク： 21世紀へ平和をつなぐ人々の行動・尼崎

日米新ガイドライン反対・関連法案を廃案にしよう！
世界の平和を私達自身の手から！

田中寿男(希望21・尼崎)

★ピースコンサートが始まった★

私たちは3月22日、阪神尼崎駅前広場でたくさんの若者たちと一緒に第2回ピースコンサートの取り組みを終えたところです。

雪のちらつく寒い中でしたが、今回は中学生へも「ガイドライン反対、関連法案を廃案へ、平和をみんなの手で創ろう」と呼びかけました。

(日米新ガイドライン=ウオーマニユアル)に関連する周辺事態法案を、何が何でも成立させようと、テレビや新聞は連日、報じています。

私たちは、ポツダム宣言を受諾して敗戦を迎えた8月14日にちなんで、世界が平和であることを願っている多くの人々の声、様々な人々の取り組みを紡いでいこうとピースウォークを続けています。毎月14日の夕方1時間ほどですが、いろいろな方たちと一緒に尼崎の各ターミナルを順ぐりにまわりながら訴えてきました。

そんな中で、「こんなことやってんねんけど、手伝ってくれへん」と、若いバンドの人達に声をかけると、「皆さんのボランティア活動に協力します」とうれしい返事が返ってきました。そして、元気あふれるパワーが、街行く人をひきつけ、強力なアピール力を発揮。「ぼくらも参加させてもらえますか」という声をつぎつぎとひきおこし、1時間ほどの枠内では納まりがつかなくなってしまうほどでした。

「若い人達のパワーをもっと展開できる場が新たに欲しいね」ということになり、ピースサイクルの人達等と一緒に、ピースコンサートを年に数回開催することになりました。今回のコンサートはその第2回目でした。

また、尼崎の労働組合など、様々な団体で作られている、『戦争は嫌だ！新ガイドライン関連法案を廃案へ！尼崎集会実行委員会』に参加させていただき、一緒に集会とデモをおこなってきました。後日、集会実行委員会名で、尼崎市議会に、新ガイドライン関連法案への反対決議を求める陳情

書を提出しましたが、現在、継続審議あつかいになっています。

★いろいろな表現をしていくことは 平和を創り出していくこと★

こうした尼崎の状況のなかで、若いひとたちと2回の勉強会をもち、現在の戦争の様相だとか、それにかからんで、日米新ガイドラインと関連法案が成立するとどうなるか、などについて学習をしました。

「みんな戦争に反対のはずなのに、なんで戦争がおこるんか解らへん」という疑問や「みんなが音楽や、ダンスや、いろいろな表現ができるということは平和であるからなんで、そんないろいろな表現をしていくことは、平和を創り出していくことでもあるんじゃないか」など意見をかわしながら、今後も、勉強会をかさねて、いっしょに考えていくことにしています。

現在、全国では200に近い自治体から、「ガイドライン反対！関連法案を廃案へ！慎重審議を！」という意見表明がなされていると新聞では報じられていますが、尼崎では継続審議あつかいにされている状態なので、私たちは今後、できるだけ様々なとりくみを織りまぜながら、運動を強めていきたいと思っています。

『「私は戦争に反対します。戦争に協力することもいやです。」「尼崎市・市議会として、人権尊重の観点にたった地方自治の精神にのっとり、尼崎市ならびに尼崎市民に対する戦争協力への義務化を強制する、日米新ガイドラインと関連法案に反対する意見表明を、政府・国会にさせていただくよう要望する署名」』活動に、(平和を願う中学生・高校生・大学生・市民・労働者の草の根の会)として取り組んでいこうと思っています。

これからも、わたしたちは、平和な世界を創り出すために、全国で様々なとりくみをされている皆さんと、力をあわせてがんばります。

今、
この人に
聞きたい！

品川区議会議員

船波恵子さん

今回は、4月25日に行われた統一地方選に品川区から「市民の絆」候補として当選された船波恵子さんの登場です。インタビューは、統一地方選の最中、大崎にある船波さんの自宅、別名「民宿船」におじゃまして行いました。船波さんは、品川区の生まれ、きれいな生花が所々にいけてあり、棚には留学中、あるいはボランティアで訪れた国の様々な民芸品が飾られていて、とても素敵に暮らしていることがわかります。生活を楽しみ、その一方で政治にも積極的に参加していく、船波恵子さんに選挙戦当時の状況や抱負を語っていただきました。

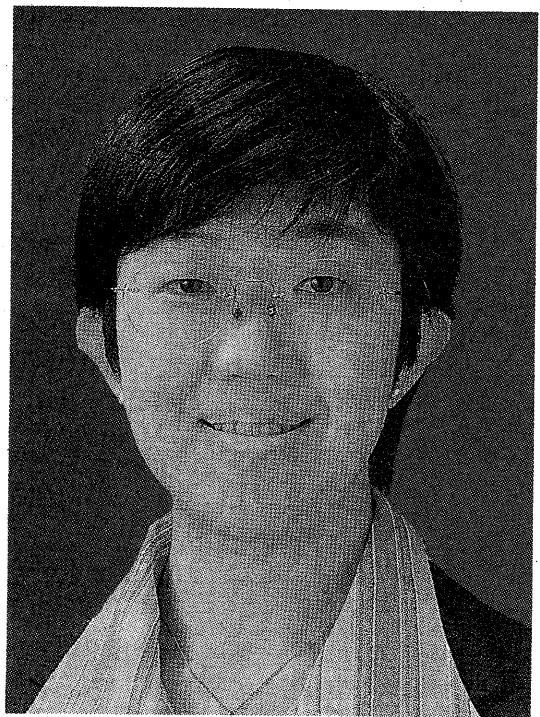
インタビューアー・志自岐亜都子（みんなで未来を作り隊）

Q選挙をやってみて、どうですか？

初めてで慣れない事も多いのですが、とにかくやるべき事をやり、前へ進む事だけを考えています。現在は、紹介してもらった人を訪ねています。みんなそうだろうけれど、昼間に訪ねてもほとんど人がいなくて、うーん、半分会えればいい方かな。それと、本番の準備をいろいろやっています。やっとな事務所もできて、作業の効率もぐんと上がりそうです。それと、私には市民サポーターズという組織、まあ組織というほど明確なものではないけれど、私を応援してくれるグループがあるので、その人達がいろいろ力を貸してくれています。すごく心強いし、うれしいですね。党の公認とはいっても、党の人のちからだけでは選挙活動や、その結果としての当選はできないでしょう。

Q船波さんが選挙に関わるようになったのは、去年の岩崎選挙からですね。私が船波さんを知ったのも、新宿の事務所だったわね。今となっては懐かしいけれど、船波さんは岩崎選挙を手伝って、どんな感想をもったのかしら。

岩崎さんと最初に会ったのはベトナムのハノイでした。その頃、私は修士論文でベトナムの経済改革について書くので、ベトナム語を勉強したり、調査したりするためにハノイに行っていました。ちょうどその時に、岩崎さんはJVCがベトナムのプロジェクトを始めるための調査をし



に来ていました。ハノイで出会ったのが最初です。その後日本に帰ってきてからもJVCのボランティアをしていたのがきっかけで、いろいろな仕事をするようになりました。

Qまあ、市民運動、市民活動からスタートしたわけだけど、政治にはあまり関わらなかったんでしょう？選挙運動とはかけ離れているから、岩崎選挙の時も驚いたでしょ。

そうね。例えば、未成年は選挙を手伝ってはいけなくて知ったときはほんとと耳を疑ってしまった。だって、政治に関心を持ちなさいって言いながら、選挙活動をしてはいけないなんて。すごく変だと思ったし、今でもそう思ってる。政治に関心を持ってと言ったって、20歳になって突然、今日から関心を持ちますなんてできないじゃない。徐々に成長していくものなんだから。選挙はあれをしてはいけない、これをしてはいけないって事ばかりで、これで市民が政治に参加できるのかなって疑問があります。例えば、個人的にすごく応援したい人がいても、個人で応援するやり方って、限られているでしょ。勝手にスピーカー持ち出して話してはいけないとか、勝手にちらしを配ってはいけないとか。選挙と市民がすごく、隔てられている感じがする。その辺を変えたいと思うけど。

Q船波さんの一番の主張がそこにあるのよね。住民参加っていうこと。

そうなの。住民参加ってなにか特別なもののように言うけれど、私にしてみたら、民主主義の国なのだから、住民が政治に参加するのは当たり前だと思うのね。例えば、選挙を棄権する人が多くなっているっていうでしょ、そういうのって、自分で自分の権利を、参加する権利を捨てていることになるでしょう。投票するだけでもいいから、自分が政治に参加するという意識を持って欲しいと思うの。まあ、民主主義の歴史とかが違うから、ヨーロッパの国とは簡単に比較できないけれど、ひとり一人が政治に参加できること、これが民主主義の基本。

Qでも、そういうことってなかなか理解されないでしょう。

私の周りにいる人はすごくわかってくれるし、今までにない新しい考え方だって言ってくれるんだけど、ちょっと知らない人に会うと、「公約は何ですか？」とか聞かれて、「市民が政治に参加しやすいシステムと一緒に作っていく事です。」と説明しても、なかなかわかってもらえない人もいます。「福祉をやりたいのか、教育問題か、環境問題か」なんてね。私はそういう短期的な目標ではなく、政治のやり方のシステムそのものを変えたいと思うんだけど。

Qそうなのよね。今までの選挙って、これこれをしてますとか言って、後はお願いしますでしょ。それで当選すると、今度は一般の人が「これこれをして下さい」ってお願いに行く。お願いする側とやってあげる側っていう関係の中に政治があるのよね。

そうなの。お願いするんじゃないで、対等な関係の中で一緒に創っていくことをやりたいんだけどね。お願い関係に慣れてしまっていると、自分で作っていくっていうのがなかなか理解しがたいみたい。

Qでも、がんばってほしいな。

もちろん、立候補したからには当選するためにがんばってます。私のやろうとしていることを、理解してくれる人もいるから、それが励みになって頑張れるの。

Q希望21というグループは機関紙にあるとおり、「平和」を活動の大きな柱にしています。今、国会でガイドラインについての審議が始まっていますが、船波さんは日米ガイドラインについてはどんな風にかんがえてるのかしら。

国際紛争を解決するためにできるなら武力を使わないほうがいいってことは、世界中のだれもが合意しているはずよね。確かに、武力を全く持たない国はまだないかもしれないけど、だからって、武力をもって当然と決めてしまうのはおかしい。本当に、武力によらずに平和を維持するのは難しいとは思う、思うけれど、じゃあ簡単に武力を使う方向へ行ってしまうといいのかな？って疑問は持ち続けたい。国会の議論もなにか表層的な感じがするのね。そんなことよりも、どうしたら武力によらないで平和を作ることができるか真剣に、真剣に話し合っほしいわね。

今日は忙しいところありがとうございました。

船波恵子さんの連絡先

品川区大崎2-7-13 TEL.03-3779-6965



西から東から

世田谷発

統一地方選では、ご支援・ご協力をありがとうございました。力及ばず、議席には届きませんでした。意味のある闘いができたことと実感しています。追って、郵送もしたいと思いますが、取りあえずメールにての御礼をお送りいたします。

ご支援を力に、敗北をバネに、感謝を込めて、新しい一步を踏み出します！

1999年世田谷区議会議員選挙でのご支援、ご協力、誠にありがとうございました。

半年前までは顔も見たことのない、無名の新人候補に對して、1795票ものご支持をいただきましたことは、正しく快挙であり、感謝の念に絶えません。しかし、この半年間、必死で運動してきたにも関わらず、議席を獲得できなかったことは、当方の力の無さの現われであり、ご支援賜りました方々には、深くお詫び申し上げます。皆様からいただきましたご支援を無駄にしないためにも、今後もこの世田谷の地で精進して参る所存ですので、引き続きのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

立候補が決定してからの半年間、思えば毎日のように朝夕に駅に立ち、地域を駆け巡る間に、本当に多くの方々の出会いがありました。「戦争への道を許さないために、君だけがたよりだ」と手を握ってくださった年配の男性。「今まで選挙に行ったことがなかったけれど、今回はあなたに投票します」と千歳烏山の駅前で声をかけてくださった、同世代の女性。「4年後も絶対立候補してください。今回は選挙権ありますから。世界平和を訴え続けてください」と言ってくれた2人組の高校生。落選した翌日、街頭宣伝の後、追いかけてきて、「あきらめないでください、それだけです」と握手した、頭を金髪に染めたチラン配りの若者。名前も聞けぬままに、過ぎていった時を思い返すと、1795という数字以上の重みが感じられてなりません。

声を嗄らして、訴え歌った「戦争協力を反対し、平和憲法を区政に」と「平和の歌」は多くの方々に届いたのだろうと実感しています。

今、日米ガイドライン関連法案が実質の審議もされぬまま衆議院を通過する状況に、自分たちの力のなさに地団太を踏む思いではありますが、今回の選挙戦で得た、ご支援と教訓を時間をかけてでも形にしていき、平和への思いが実るように育ててまいります。

最後になりますが、まるで候補者の肉親のように親身になって選挙戦を支えてくださった方々。久しぶりの再会なのに息をつくまもなく、運動に従事してくださった友人・知人に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

1999年5月2日

菅原かずゆき

鎌ヶ谷発

篠崎史範

ご支援、ありがとうございました。

疲れもとれ、ようやく通常の日常生活に戻りつつあります。

ご報告が遅れましたが、鎌ヶ谷市議選にて、1381票獲得し無事当選できました。多くの方々のご協力なしには、取れなかった数字だと思います。

今後4年間、「期待票」を「実績票」に変えていかなければなりません。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

京都発

希望21京都

もとなみ奈津の府会選挙の結果、約5,500票で、今回は残念ながら当選することが出来ませんでした。しかし、社民党の公認発表が1月中旬ですから、この短い期間に精一杯頑張ったと、京都の希望21メンバー、皆自負しておりますし、これまで知らなかった社民党伏見支部の方々とも、この選挙を通して知り合い、次へのステップを確実に作る事が出来たと思います。総括はしっかりしたいと思いますが、取り急ぎの報告です。

門真発

戸田久和

先日「当選認定証」を市役所で受け取り、5月6日に議員バッジほか各種書類を受け取って「全員協議会」というのをやり、10日までにどの会派に属するかを決めて、いろんな駆け引きを経て、5月18日・19日に臨時議会で議長・副議長や各種委員会への議員配置や委員長などを決めていきます。

(戸田はこの会派にも属さない「1人会派」(規定により1人では会派と認められないので、議会での呼び方としては「無所属」)でやっていくつもりです。)

5月18日には5月分議員報酬(税込み61万円、手取り予想45万円)が支払われるので、それに出席手当(費用弁償)が含まれているでしょうから、さっそく受け取り拒否して法務局に供託し記者会見を行なう予定。

.....などなどいろいろなことが起こっていきます。「とんでもないやつが当選してしまった」という驚きととまどいが議会や役所のあちこちにわき起こっていることは、戸田の耳にも入ってきています。

「これからは談合できなくなる」という大変正直な嘆きもあるそうです。大いに結構！！

ということもあって、戸田の週間活動メモみたいなものも、ホームページに掲載してゆきたいと考えています。

戸田ひさよし(ヒゲ戸田-門真)

higetoda@pop02.odn.ne.jp

自宅:門真市北巢本町17-7

電話・FAX:0720-85-6491

★★★

以上、とりあえず 希望21編集部へ届いた報告です。

当選御礼 ばりばりやりまっせ！

門真市議選挙報告

門真市議会議員 戸田久和(希望21・大阪)

選挙運動最終の土曜夜、事務所での打ち上げ会を抜け出して戸田は12時まで地元の駅頭に一人で立ち続けた。スタッフ・支援者はそれぞれに熱い思いを語り合っているだろう。さらに熱心な人は居酒屋やスナックで集票活動を続けているだろう。

1週間の選挙運動の最後ではなく、9ヶ月に渡る全力を振り絞った活動の最後としてのカウントダウンが戸田の心の中で行われてゆく。今回の選挙のスタイルを象徴する、最後の夜の情景だった。

さすがに最後の30分はびっ倒れそうだったが、12時でタスキをはき満足感で居酒屋2軒をはしごして知人たちと祝杯！(われながらすごい元気だ)

さて、選挙結果を見ると投票率最下位定番の門真だけが、今回5%以上アップし、当選ラインも前回より120票アップ。どこでも1位と最下位の差は2倍以上あるものなのに、2155票対1313票という狭い範囲に28人が並んだ。1000票以上の落選者があと5人もいるから、まれにみる大激戦だったと言えるだろう。(保守有力新人2人出馬の影響大)

公明党が1増の8議席も獲得したのに、上げ潮の共産党が1増を狙いながら1減の4議席、というのも門真だけの現象だろう。

その中で戸田は、28議席中28位・1313票、4期現職の共産党議員を29票差で次点にしての「首の皮1枚」での当選だった。

ただしこれを見て「共産党の票を食って当選した」と思うのは早計で、その分はせいぜい200票もないだろう。

前回までは保守派支援だったけど戸田の心意気が気に入ったから応援するわという人、居酒屋の客として共感した人、門真では異例の高学歴と変わった経歴に興味を持って入れた人、保育園前で総計1500人対話・3500軒訪問・6号13万枚の「くらしニュース」などの活動に共鳴した人、地元町内から入れてくれた人、「中小企業の労働者・プロドライバー17年」に親しみを感じてくれた人、沖縄のことをがんばってくれるからと評価した人、・・・などなど様々だし、「オレが戸田を押しすんやから、あんたんとこもせえ」という人脈選挙の様相もかなりあるだろう。

生まれてから初めての投票が戸田や、というオッチャンもあちこちにいる。

創価学会員だけでも戸田に入れてくれた人も何十人かはいる。(そういう説得活動してくれる人が味方になっているのだから) 名前連呼だけの門真パターンと全然違うスタイルの選挙宣伝とか、有名人・他市議員の応援などや本人の演説を聞いて掘り起こされた人の数も少なくない。

こうなればもう複合的な勝利だと言うしかない。そのどれもが当選に取って不可欠な要素としてあったが、共通して言えるのは、戸田に市民(というよりは庶民か)の感覚に立って閉鎖的な門真を揺すぶってくれ、という熱い期待だと思う。

選挙戦では、「年収1200万円の議員をしっかりと働かせるために情報公開を進めよう」「おかしな手当を廃止させよう」ということにほとんど絞ってガンガン宣伝をした。不当な出席手当(費用弁償)問題では、清潔が売り物の共産党も、(門真では)全然改善しようとしないう実態が浮かんできたりもした。

共産党筋からは、「戸田は離婚しているからちゃんとした人じゃない」「連帯ユニオンなんてヤクザみたいな組合で関わったら逃げられなくなるで」、公明党筋はもっとひどくて「戸田は赤軍派で右翼や」という口コミが流されたり(誰や、みんな当たってる、なんて言うのは)したけれど、戸田や連帯が選挙やるからにはそんなことは先刻承知の上、いっさいひるまず押しまくり。

ムラ型選挙の色濃い門真で、地盤のない新人が一発で当選するのは、かつてない快挙。需要のある所に良質品を万全の戦略で提供するのだから1500票くらいはいける、と踏んできた戸田としては、苦い勝利。選挙本番体制への研究不足が大きかったと反省。

(選挙カーでの連呼はしません、を4日も続けたのは際どかった。選挙カーを心待ちにしている庶民は多かった！)

「本格的に後援会作ろうや」という動きが進む一方、「とんでもないやつが当選しやがった」という既成勢力からの正しい評価もいただいて、ファイト満々。乞うご期待！

編集後記

今年の統一地方選挙ほど雨にたたられたことはないのではないかと思います。たった一週間の選挙戦。「選挙カーはうるさくていやだ」という多くの人々の声が上がると、名前の知られている人や強固な組織のある団体から出馬しているのではない限り、いやでも自分の名前を連呼しなければ覚えもらえないというのが現実。

今月号のインタビューの船波さんも選挙運動の方法について「市民が積極的に関われる方法」について語っておられます。希望の仲間「市民の絆」や、無所属などさまざまな形で挑戦しました。当選・落選と明暗は分かれましたが、共通しているのは、選挙運動を通して、実にさまざまな人々と出会い、話すことができたということです。この出会いを大切にまた一回り大きな希望をみんなで作っていったらいいなと思います。

この1ヶ月の間、日米新ガイドラインがほとんど議論もつくされないまま衆議院を通過してしまい、小淵首相はここにことアメリカを訪問し、国内では、オームの勢力拡大について破防法を適応しなかったからだというマスコミの宣伝が盛んです。それにしても若い人たちが、引き付けられるようにオームに入っていくのは不思議です。一方、労働組合の構成員数は、どんどん減っています。労働組合の存在意義も分かりにくくなってきているのかもしれない。

43号は諸般の事情により4月中に発行できず大幅に遅れてしまいました。ごめんなさい。

5月の大型連休も終わり、明日からまた仕事です。みなさんががんばりましょう!(ち)

希望の21世紀宣言

私たちは、現在のモノ中心の社会を、人間が人間らしく生きることのできる社会へとつくり変えていくことをめざします。

人間らしい社会—人と人が平等に、ともに助け合って、人間が自然の一部としての本来の姿で生きることのできる社会—を実現することこそが、人々の希望です。私たちはそのために、あらゆる領域で民主主義を徹底し、民主主義の実現をはばむものに対してたたかいます。

私たちは、世界に戦争と大国主義の不平等をもたらす憲法改悪を許しません。9条の理念の実態を日本から作っていくことよって世界の平和と民主主義の実現に貢献していきます。国と国とは対等平等の関係にあり、人間らしく生きることよって豊かさの尺度に、人々の在り方を人々が決め、どこの誰も本当に武力を必要としない国際社会の実現こそが、平和の実現です。

私たちは、地域から国の進路、世界の在り方を決定する政治的な力をつくっていきます。そのために、私たちの意志、知恵や力を結集し、互いの経験に学び合い、信頼を築き合いながら、自治の実現をめざします。何かに頼ることなく、広範な人々とともに、変革の力をつくり、その統一を推進することを自らの役割とします。

世界の現実を変えること—それは私たち自身の在り方、運動の在り方を変えることなくしては実現できません。私たちは自らを変え、人と人との関係を変えあうなかで、現実を変革していきます。本音を出し合い、あらゆる困難をともに克服し、成功や喜びを、そして失敗や悲しみをも共有し、助け合ってたたかひの輪を広げ、その中に新しい社会を準備していきます。

人間らしい社会の実現をめざし、世界の平和と民主主義を求める人々とともに、希望の実現に向けて進みます。

1部200円 定期購読をよろしくお願ひします! 年間購読料3000円(送料込み)

郵便振替:00100-1-97125『希望の21世紀』

月刊
発行
編集
印刷
連絡先

『希望の21世紀』

●43号 1999年5月7日

●「希望の21世紀」全国委員会

●希望21三多摩

●Jam Print

●希望21・三多摩

東京都日野市多摩平6-20公住219-5 三浦方

TEL&FAX 042-582-2407

●希望21・京都

京都市伏見区桃山南大島町1-4 桃山南団地39-304 吉田方

TEL&FAX 075-622-2580

●希望21・未来はみんなでつくり隊

東京都世田谷区上祖師谷6-29-1 みやび荘205号 菅原方

TEL&FAX 03-3305-0300

●希望・大阪

大阪府門真市北巢本町17-7安井文化202 戸田方

TEL&FAX 0720-85-6491

希望21

